

動物園の社会的役割を
伝えるイベント
「大人の飼育員体験」

足立区生物園
石谷遥香

イベント実施の背景



イベント実施の背景

既存イベント「こども飼育員体験」



対象：小学4～6年

生きものを最後まで
飼育する大変さや重
要性を学ぶ



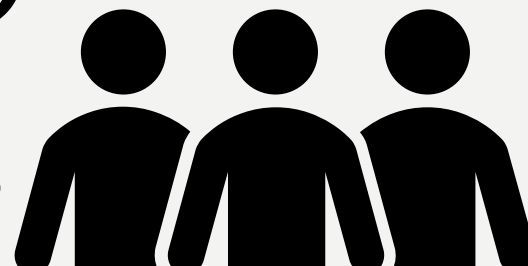
2021年度～

「大人の飼育員体験」



参加希望

中学生など



「大人の飼育員体験」とは

実施時期：年1回

時間：10:00-16:00（1時間半の休憩含む）

対象：中学生以上 定員：6人

参加費：2000円（入園料込）

応募方法：WEBフォーム、電話

募集期間：実施1か月前～2週間前

広報媒体：ホームページ、区内広報紙、SNS

ねらい（参加者になってほしい姿）

動物園水族館における社会的役割に関わる活動に興味を持ち、社会的役割について調べ、行動するきっかけになる

The screenshot shows the application form for the 'Adult Keeper Experience' event. At the top left is the logo for Adachi Park of Living Things (足立区生物園). At the top right, there are links for 'ご利用案内' (Terms of Use) and '学校・団体の方' (For Schools/Organizations). The main heading is '申込フォーム' (Application Form). Below it, the event details are listed: 'サイエンスカフェKATARU 第5夜「飼育」' (Science Cafe KATARU 5th Night 'Keeper'), '日時：2026年1月24日（土）' (Date: 2026 Jan 24 Sat), '18:00～20:00', '参加費：1人あたり1000円' (Fee: 1000 yen per person), '対象：中学生以上' (Target: Middle school students and above), '場所：足立区生物園 出会いの広場' (Location: Adachi Park of Living Things, Meeting Plaza), '申込締め切り：1月14日(水)' (Deadline: Jan 14 Wed), and a note: '※応募者多数の場合は抽選となります。' (Note: In case of many applicants, a lottery system will be used). Below the details is a section for '参加人数*' (Number of participants) with radio buttons for 1, 2, 3, 4, and 5 people. There is also a section for '【参加者①】*' (Participant 1) with a note: '当落など、当園からの連絡を行う際に窓口となる方。' (In case of selection, this person will be the contact point for communication from the park). The form includes input fields for '氏名' (Name) with sub-fields for '姓' (Surname) and '名' (Given name), and 'フリガナ' (Romaji name) with sub-fields for 'セイ' (Surname) and 'メイ' (Given name).

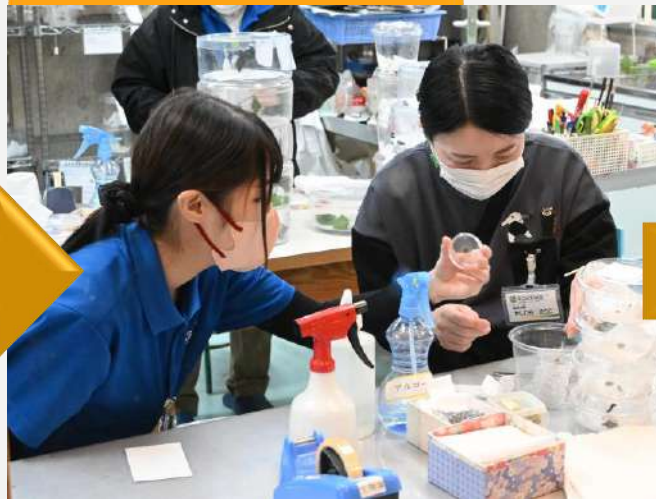
イベントの流れ

導入



飼育員の仕事の紹介
施設の役割の紹介

展開



飼育班ごとにわかれて飼育体験
作業の意味や重要性を紹介

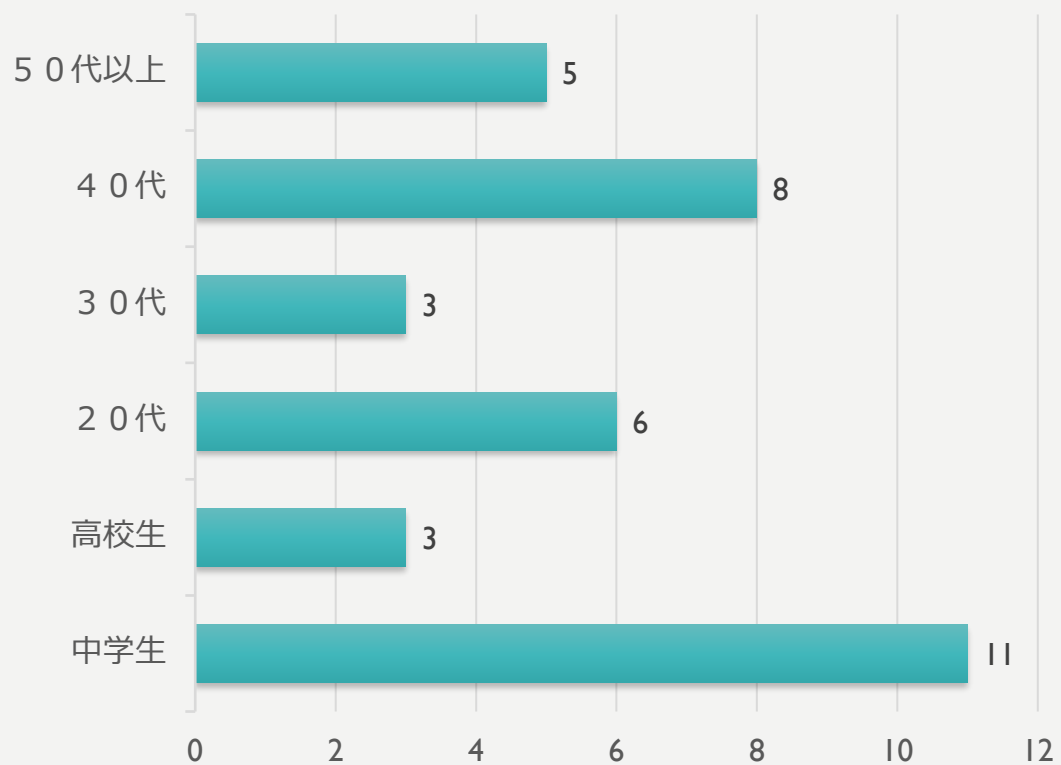
まとめ



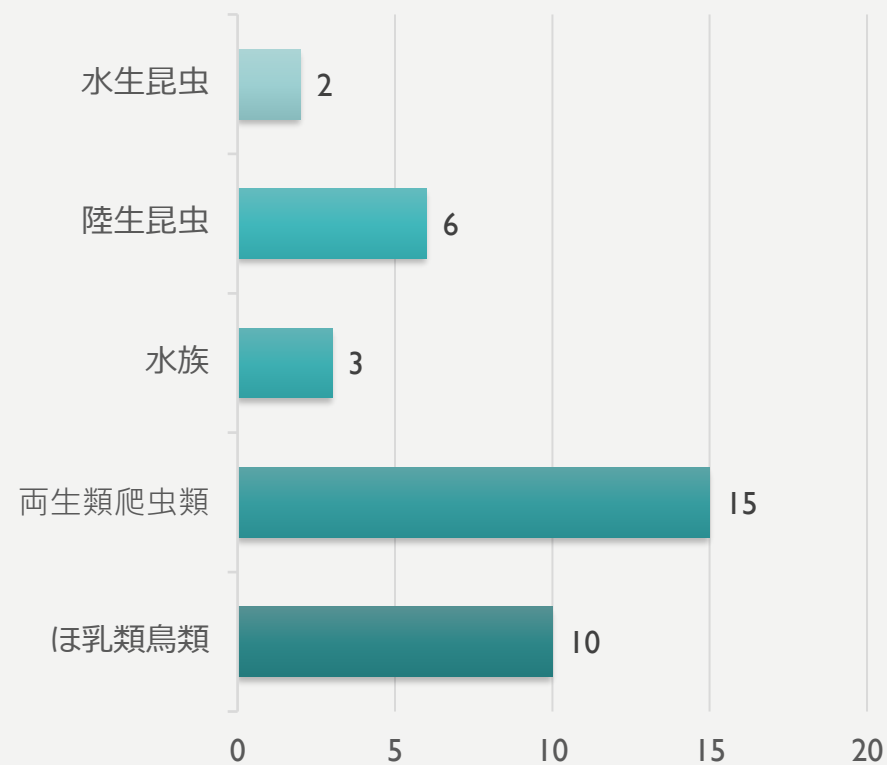
作業のふりかえり
役割との関連性を確認
一人一人ができること

2025年度応募者（結果）

2025年度 応募者層



希望飼育班



2025年度応募者（結果）

応募理由一部抜粋

- 生きものが好き。オープンキャンパスなどに行って、動物園を進路の一つとして興味を持っている。
- 年パスを持って通うくらいに生物園が好き！動物・生きものが好きで知りたい。
- 珍しい生きものの飼育や施設の取り組みから、生物園に興味を持った。家でペットを飼育しているため、施設の観点から生きものの飼育の意義を知りたい。

**飼育方法に関する
関心度がかなり高い**

2025年度参加者（結果）



スタッフアンケートより抜粋

- 飼育以外の仕事（接客、展示など）にも興味を持って質問をしていた
- かなり飼育に興味がある様子だった

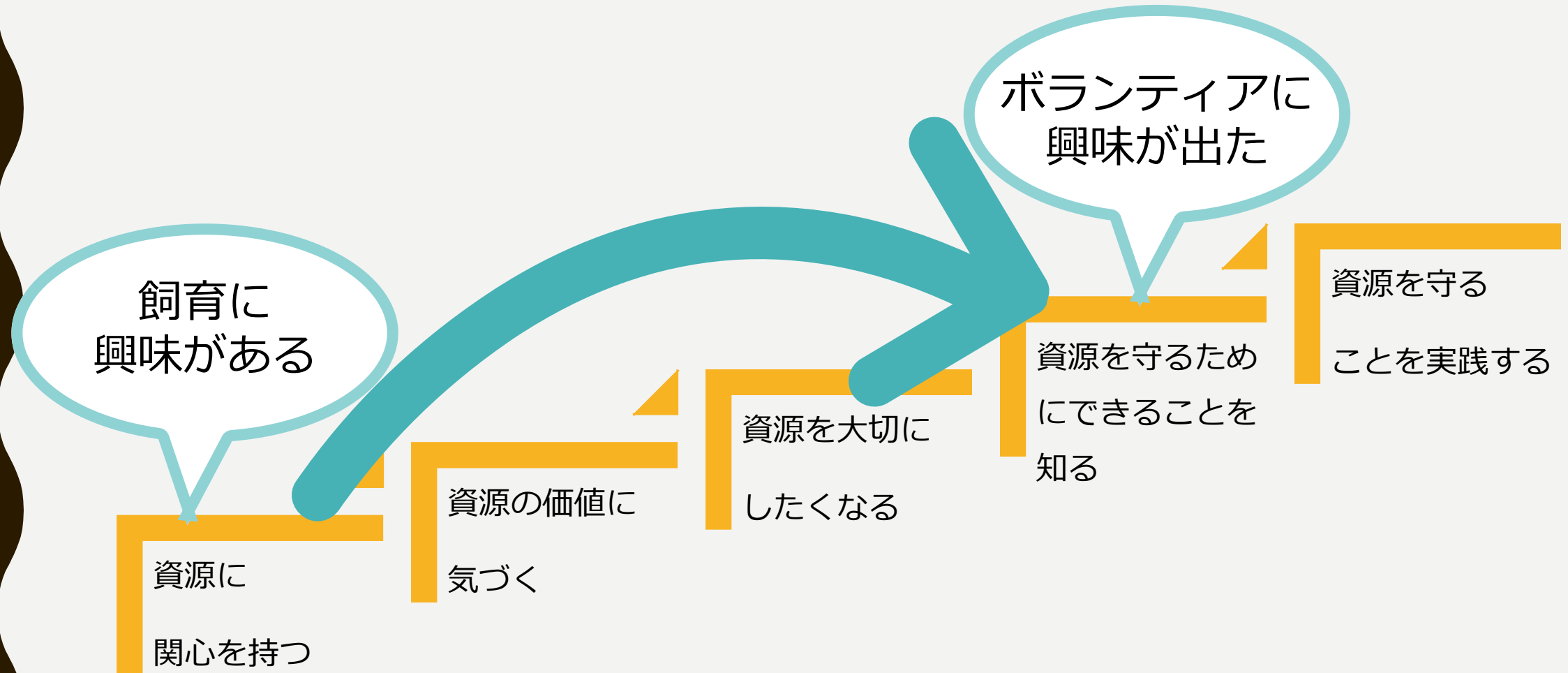


アンケート内容抜粋

- 繊細な生き物への工夫がたくさんあってすごいと思った
- 将来、生物関係の仕事に就きたいと考えている。良い経験ができた。
- ボランティアに興味を持った

2025年度 満足度
5段階中 全員5

考察と展望



考察と展望

生物園で行われている保全活動のポスター展示



ツシマウラボシシジミの保全活動

ツシマウラボシシジミ *Pithecops fulgens tsushimanus*



分布：長崎県対馬市
開長：20mm
【レッドリストなどの指定】
・環境省 絶滅危惧ⅠA類(CRI)
・長崎県 絶滅危惧ⅠA類(CRI)
・国内希少野生動物種
・対馬市天然記念物

日本では長崎県対馬北部にのみ分布する小さなシジミチョウです。近年生息数が急激に減少しており、2017年1月に環境省が定める種の保存法において、「国内希少野生動物種」に指定されました。沢沿いの林道に生息し、スギ林で多く見られます。幼虫は明るい林床に生えるヌスビトハギを食べます。

生息環境の危機

対馬のスギ林は管理されなくなり林床が暗くなってしまいました。そのため草花や食草のヌスビトハギが少なくなりました。

さらに林床に残った植物も増えたシカの食害にあっています。これらのことが原因で、本種の生息に適した環境がなくなりました。



生物園での保全活動

生物園では対馬から避難させたツシマウラボシシジミの成虫を受け入れ、繁殖を行うことで本種の保全を行っています。

交尾・採卵(5月上旬、7月中旬、9月下旬)

成虫を生物園の大温室に放して交尾させます。交尾したメスは大温室から回収し、室内で採卵します。



室内での幼虫飼育(採卵から1ヶ月間)

幼虫は室内で飼育しています。基本はヌスビトハギの若葉を与えていますが、柔らかい葉が少ない秋以降は花や実を与えています。冬は幼虫を屋外に出し、越冬させています。



幼虫は個別飼育

本種の幼虫は共食いすることがあります。小さなケースに分けて飼育し、共食いを防いでいます。

